

＜シンポジウム (1)―12―1＞神経内科のプロフェッショナルリズム

プロフェッショナルリズムとは？

大生 定義

(臨床神経 2012;52:1024-1026)

Key words : プロフェッション, 医のプロフェッショナルリズム, 社会契約, 互恵的利他主義

学術大会でこのテーマがとりあげられ、議論される運びになったこと自体が大変に意義深い。医のプロフェッショナルリズムにおいて、以前から重要なヒーラーとしての側面に加え、近年、社会とのコンテクストがきわめて重要になった。常に「これでよいのであろうか」と振り返りつつ、高みを目指す姿勢が求められている。以下4点に分けて簡単に述べた。

1) プロフェッションとは？

2005年11月頃の「姉歯問題」でも浮き彫りになったように、素人には内容や質が容易に理解できない仕事に従事する専門職には一定の資格・免許などで特別な地位と独占性が認められ、それゆえ職業倫理の確立と尊重が求められる。プロフェッションとは、Cruesell¹⁾によれば、「複雑な知識体系への精通、および熟練した技能の上に成り立つ労働を核とする職業であり、複数の科学領域の知識あるいはその修得、ないしその科学を基盤とする実務が、自分以外の他者への奉仕に用いられる天職である。そして、その構成員は、自らの力量、誠実さ、道徳、利他的奉仕、および自らの関与する分野における公益増進に対して全力で貢献する意志 (commitment) を公約 (profess) する。この意志とその実践は、プロフェッションと社会の間の社会契約 (social contract) の基礎となり、その見返りにプロフェッションに対して実務における自律性と自己規制の特権が与えられる。」とされる。

さらに個々の医師および医師集団は、無書面の契約を結んでいるとされる (Fig. 1)。

2) 医師への期待とプロフェッショナルリズム

医師へは、社会や患者から Communicator・Collaborator・Manager・Health Advocate・Scholars などの他に、個人や社会の健康などに倫理性・専門職としての自己規制・高い行動規範をもってかわられる、Professional を加えた多面的な期待を持たれている。Stern²⁾らは神殿の建物に模して、臨床能力 (医学的知識)・コミュニケーション技術・倫理のおよび法的解釈という土台の上に立てられた「卓越性」「人間性」「説明責任」「利他主義」の4本柱をプロフェッショナルリズムと定義している。筆者はこれに、常に高みを目指す、強い意志 (in-

tegrity) も加えたい。プロフェッショナルリズムに、種々の立場から広義・狭義の定義があるが、具体的なものとして、いわば社会契約を明示したものに、欧米内科学会が合同作成した新ミレニアムにおける医のプロフェッショナルリズム：医師憲章がある³⁾。患者の福利優先の原則、患者の自律性 (autonomy) に関する原則、社会正義 (social justice, 公正性) の3原則と、10の責務、すなわちプロフェッショナルとしての能力に関する責務、患者に対して正直である責務、患者情報を守秘する責務、患者との適切な関係を維持する責務、医療の質を向上させる責務、医療へのアクセスを向上させる責務、有限の医療資源の適正配置に関する責務、科学的な知識に関する責務 (科学的根拠に基づいた医療)、利害衝突 (利益相反) に適切に対処して信頼を維持する責務、プロフェッショナル (専門職) の責任を果たす責務 (仲間や後進の育成など) を掲げ、これの順守を求めている。医師ははじめから、患者個々の視点と社会の視点の双方を求められており、アンビバレンスが不可避な、大変困難な職業である。筆者はプロフェッショナルリズムについては、行動様式、ふるまいかたと簡単にまとめ、医師としての身の処し方、physician-ship として狭義にとらえたいと考えている。医師のプロフェッショナルリズムは、自律性を持ち、社会契約に基づいた医師という専門職の姿勢・構え・行動様式であり、その背景には健全な倫理観がある。基本的には科学性・人間性・社会性の要素があり、適切にこれらが濃淡をもって具現

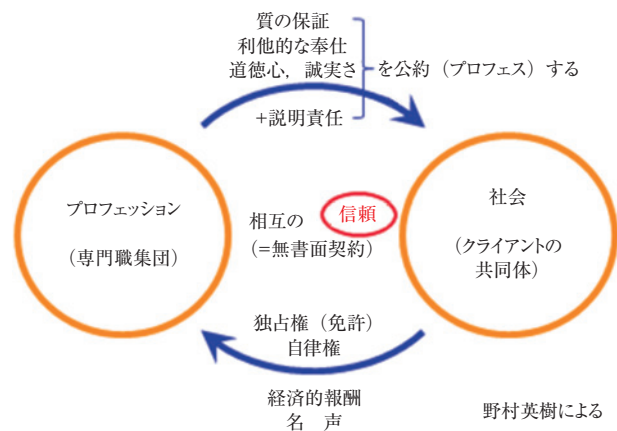


Fig. 1 プロフェッションと社会との契約。

化するのが診療場面である。常に振り返り、学習しながら向上をめざす姿勢、同僚や後輩への教育的な態度とともに、自己研鑽・自己規制などをやりぬく強い意思をどう現実の場面で持続していくか、研修するものも指導するものもよいロールモデルになるような不断の努力が必要である。一例としてではあるが、「目でみえる」行動様式の評価については、P-MEX（医師・患者関係構築能力、省察能力、時間管理能力、医療者間関係構築能力の4分野の評価のみ）というスケールが有用である⁴⁾。わが国においても妥当性はあるように思われる⁵⁾⁶⁾。

3) 医師のプロフェッショナリズムを支える気概

筆者は自負としてのノブレス・オブリージュ (noblesse oblige)ではなく、やっていることが自分をふくめた皆の役に立つ「情けは他人(ひと)のためならず」という基本的な社会のありかたがこれからは重要ではないかと考えている。ジェインジェイコブスはこれまでの倫理観を整理し、2つに大別した(市場の倫理、統治の倫理)。これを引用しつつ、経済学者の松尾匡は、「武士道」と「商人道」から社会のあり方を論じている。彼は、これまでの日本社会は身内への忠実を誓う倫理である「武士道」が中心であり、“仲間内の評判”を何よりも重視する「武士道」の倫理が、顧客軽視の食品偽装など、企業不祥事の背景にあると指摘する。一方、他人への誠実を重視する倫理である「商人道」では、売り手、買い手、世間の「三方よし」の精神、公正な商取引を善行としていて、貴賤の別なく人助けに尽力した石田梅岩などがそのよい我が国の例であり、「武士道」ではなく、他人にも自分にも利をもたらず商いを心がけ、グローバルな精神で世をわたる「商人道」(患者よし、医療者よし、社会よし)が現代にも引き継ぐべきあり方と主張している。進化の過程を考慮しても人間には互恵的な利他主義が可能ではないかと考える⁷⁾。

4) これからへの情報提供

1. 学会の抱える利益相反

今後、本学会のみならず、医学系の学会は、1) 政治的経済的を担う代表あるいは通商団体、2) 研究・学術団体、3) 資格認定・管理団体という利益相反のある役割を兼ねており⁸⁾、会員数を増やすということと適正な質を担保するということは必ずしも利益が一致しないこともある⁸⁾。第三者機関をどう導入して、社会への説明責任をはたすか、課題がある。

2. 心理的規制の理解と対処

ボールペンやメモ帳の提供、製品説明会での弁当の提供は

ほとんどの医師が受けていたが、他の医師は製薬会社からの影響を受ける可能性があるが、自分は大丈夫である、というふうに考える傾向が強いこと (self-serving bias) や自己の行動を正当化する心理的防衛機構についても紹介した。このような心理防衛機構と実際の行動との関連は、認知的不協和のマネジメントとして以前から指摘されている。議論する際には十分に留意する必要がある。

紙面の都合で不十分な記載となった。参考文献⁹⁾などで理解を進めて下されば幸いである。

※本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体はいずれも有りません。

文 献

- 1) Cruess SR, Johnston S, Cruess RL. Professionalism for medicine: opportunities and Obligations. *Med J Aust* 2002;177:208-211.
- 2) Arnold L, Stern DT. What is Medical Professionalism? In: Stern DT, editor. *Measuring Medical Professionalism*. New York: Oxford university press; 2006. p. 15-37.
- 3) ABIM Foundation. American Board of Internal Medicine; ACP-ASIM Foundation. American College of Physicians-American Society of Internal Medicine; European Federation of Internal Medicine. *Medical professionalism in the new millennium: a physician charter*. *Ann Intern Med* 2002;136:243-246.
- 4) Cruess R, McIlroy JH, Cruess S, et al. The professionalism Mini-Evaluation Exercise: A preliminary investigation. *Acad Med* 2006;81(10 Suppl):S74-S78.
- 5) Tsugawa Y, Tokuda Y, Ohbu S, et al. Professionalism Mini-Evaluation Exercise for medical residents in Japan: a pilot study. *Med Educ* 2009;43:968-978.
- 6) Tsugawa Y, Ohbu S, Cruess R, et al. Introducing the Professionalism Mini-Evaluation Exercise (P-MEX) in Japan: results from a multicenter, cross-sectional study. *Acad Med* 2011;86:1026-1031.
- 7) 野村英樹. プロフェッショナリズムの本質：利他主義と社会契約を理解する. *日内会誌* 2011;100:1110-1120.
- 8) 野村英樹. プロフェッションによる教育と自律のあり方. *日内会誌* 2010;99:1116-1121.
- 9) 大生定義. プロフェッショナリズム総論. *京府医大誌* 2011; 120:395-402. (<http://www.kpu-m.ac.jp/k/jkpum/pdf/120/120-6/oobu.pdf>).

Abstract**What is professionalism?**

Sadayoshi Ohbu, M.D. MMedSc (Clin. Epid), F.A.C.P.

Department of Sociology, Rikkyo University

What is a profession? According to Cruess, it is an occupation whose core element is work that is based on the mastery of a complex body of knowledge and skills. It is a vocation in which knowledge of some department of science or learning, or the practice of an art founded on it, is used in the service of others. Its members profess a commitment to competence, integrity, morality, altruism, and the promotion of the public good within their domain. These commitments form the basis of a social contract between a profession and society, which in return grants the profession autonomy in practice and the privilege of self-regulation.

Although medical professionals share the role of healer, there are wide variations between individuals. Professionalism is the basis of medicine's contract with society. Public trust is essential to that contract, and public trust depends on the integrity of both individual professionals and the whole profession.

The introduction to this important symposium includes definitions of professions and of medical professionalism. It also includes discussions of reciprocal altruism, conflicts of interest in medical societies, the theory of cognitive dissonance, and the moral foundations of professionalism.

(Clin Neurol 2012;52:1024-1026)

Key words: Profession, Medical professionalism, Social contract, Reciprocal altruism
